

やちだも

札幌市立清田小学校

学校便り【全国学テ特別号】

☎ 881-2852

令和8年（2026年）9月11日

学校HP <http://www.kiyota-e.sapporo-c.ed.jp>

全国学力・学習状況調査（6年生）の結果について

4月に全国の6年生を対象として実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の結果概要をお知らせいたします。調査を受けた6年生児童の保護者の皆様には、設問ごとの正誤等が記された個人票をすでに配付しております。

今回の調査結果を「学校全体の成果と課題」として捉え、今後の教育活動や授業改善に生かしてまいります。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解ください。

学力調査の結果 本校の平均と全国の平均を比較して

本校の概要

・「話すこと・聞くこと」
の正答率は全国平均と比べ上
回っている。（+4.0ポイント）
本校 69.8% / 全国 65.8%

・「読むこと」の正答率は全国平
均とほぼ同程度であるが、や
や上回っている。
（+1.1ポイント）
本校 67.0% / 全国 65.9%

・「書くこと」の正答率は全国平
均とほぼ同程度であるが、や
やや下回っている。
（-0.4ポイント）
本校 45.3% / 全国 45.7%

・「言葉の特徴や使い方に関す
る事項」の正答率は全国平均
と比べ、上回っている。
（+3.5ポイント）
本校 70.3% / 全国 66.8%

・「情報の扱い方に関する事項」
の正答率は全国平均と比べ、
下回っている。
（-5.1ポイント）
本校 47.2% / 全国 52.3%

今回の調査における課題

▲目的に応じて、必要な情報を
見付けることができる。

▲話や文章の種類とその特徴
について理解することがで
きる。

▲筋道の通った文章となるよ
うに、文章全体の構成や展開
を考えることができる。

▲考えとそれを支える理由や
事例など、情報と情報との関
係について理解することが
できる

▲情報と情報との関係付けの
仕方、図などによる語句と語
句との関係の表し方を理解
し使うことができる

改善の方向

■課題を解決するために必
要な情報に線を引いた
り、複数の資料から必要
なキーワードだけを書き
取ったりして「情報の取
捨選択」の機会を設定す
る。

■文章の目的や種類、構造
や展開を意識して、資料
を読む機会を設定する。

■主張・理由・事例の関係
を整理し、情報の論理的
なつながりに対する理解
を深める機会を設定す
る。

■文章の構成メモにおい
て、「はじめ・中・おわ
り」のつながりを矢印や
記号で可視化し、「1文を
短く」「接続詞を正しく使
う」ことについて、確認
し合う機会を設定する。

■図やメモを活用すること
で、情報の構造を視覚的
に整理する活動を取り入
れる。

- ・「数と計算」の正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。(−1.7ポイント)

本校 59.4% / 全国 61.1%

- ・「図形」の正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。(＋1.8ポイント)

本校 57.1% / 全国 55.3%

- ・「測定」の正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。(−2.6ポイント)

本校 75.5% / 全国 78.1%

- ・「変化と関係」の正答率は全国平均と比べ、下回っている。(−4.0ポイント)

本校 37.1% / 全国 41.1%

- ・「データの活用」の正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。(＋0.9ポイント)

本校 49.5% / 全国 48.6%

- ▲基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる。

- ▲立方体の体積の計算による求め方について理解している。

- ▲図から指定された時間を読み取る問題において、示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができる。

- ▲単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる。

- ▲二次元の表から、条件に合う数を読み取るができる。

- 低学年から、数量関係を図や数直線に表したり、それを読み取ったりする経験の積み上げを大切にする。

- 面積の学習を生かして広さを体感させるなど、実感を伴いながら体積の求め方を習得する。

- 複数の条件を数直線やタイムラインに整理し、時間の経過や順序を可視化したり、それを読み取ったりする力を高める。

- かけ算・わり算の学習段階から、式で扱う数の意味や関係の理解を進めることで、単位量を求める式の意味や商が表す状態を理解する力を高める。

- 低学年の分類や表に整理する活動を基に表を読み取る力を高め、高学年での二次元の表の分析や資料を比較する力を高める。

学習環境や生活習慣（学習状況）に関する質問紙調査の結果から（6年生）

質 問	全国平均	清田小
○ 人の役に立つ人間になりたい。	70.8%	83.9%
○ 人が困っているときは、進んで助けている	20.5%	30.4%
○ 地域や社会をよくするために何かしてみたい	31.9%	42.9%
○ 友達と協力して課題解決に取り組んでいる	52.7%	60.7%
○ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.5%	96.4%
▲ 自分には、よいところがあると思う	43.6%	37.5%
▲ 友達関係に満足している。	62.7%	55.4%
▲ 毎日、同じくらいの時刻に起きている。	55.9%	46.4%
▲ 朝食を毎日食べている。	83.1%	71.4%
▲ 平日1日当たり、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをする時間（学習・ゲームを除く）が「3時間以上」	37.6%	55.3%

【結果より】

- ・異学年交流や委員会活動、幼稚園・保育園を含む地域の皆様との交流により「人が困っているときは、進んで助ける」「人の役に立ちたい」「地域に貢献したい」という他者貢献意欲が高く協調性もある。「先生から認められている」という実感、下学年の児童との交流の様子とは裏腹に自己肯定感が高まっていないことが課題。また、約半数が友達との関係に満足できていないことから、同学年内での人間関係づくりに困難や不安を抱えているという課題が見られる。
- ・スマートフォンやタブレット端末などで長時間にわたり SNS や動画視聴をしている児童が多いことや「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣が身に付いていない児童が多く見られる。生活リズムの乱れや睡眠不足により、集中力の低下、イライラや気分の不安定さ、記憶の定着などに支障が出ていることが考えられる。保護者の皆様の御協力を得ながら、生活習慣の改善と NET モラルの向上を図っていききたい。
- ・日々の授業や行事、様々な取組の中で一人一人の違いを認めたり発言や行動などを価値付けたりしながら、子どもたちが他者のために役立っているという意識を育てたい。

質 問	全国平均	清田小
○ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う。	43.0%	67.9%
○ 平日の家庭学習時間（学習塾等含む）が「1 時間以上」	66.1%	71.4%
○ 休日の家庭学習時間（学習塾等含む）が「2 時間以上」	43.0%	67.9%
○ 算数の授業で考え方を説明する活動をよく行った。	37.8%	50.0%
○ 自分で学び方を考え、工夫することができている。	31.9%	42.9%
○ 課題解決に向けて自分から取り組んでいた。	31.4%	41.1%
○ PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる。	69.5%	76.8%
○ 家庭で ICT 機器を勉強のために 1 時間以上使っている。	13.4%	23.3%
▲ 1 日の読書時間が 1 時間以上である	25.8%	19.6%
▲ 学校図書館の利用頻度（月 1 回以上）	34.9%	19.7%
▲ 国語の勉強が得意	27.5%	21.4%
▲ 国語の勉強が好き	30.0%	23.2%
▲ 算数の勉強が得意	31.6%	26.8%
▲ 算数の勉強が好き	41.9%	30.4%

【結果より】

- ・「学びを実生活に生かしたい」という意欲や「他者の役に立ちたい」という利他的な意識が非常に高い一方で、「図書館の活用」や「読書習慣」といった自発的な知識探究の基盤に課題がある。
- ・ICT 機器を使って情報を整理することに自信を持っている児童が多いことや学習のために ICT 機器を利用する機会が増えていることから、1 人 1 台端末持ち帰りの環境整備を進めることでより効率的に学習を進めることができるようになっていきたい。

- ・「課題解決に向けて自分から取り組んでいた」「自分で学び方を考え、工夫することができている」「算数の授業で考え方を説明する活動をよく行った」の回答状況から、自ら進んで学んだり、仲間と一緒に学んだりすることのよさを実感している様子がうかがえる。また、家庭学習時間の回答からも、学ぶ意欲の高さが見られる。
- ・意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い一方で、学習が「好き」「得意」という児童の割合は低い。一人一人の理解の度合いや考え方の違いを活かした学び合いを積み重ねることで、子ども一人一人が学ぶ楽しさを実感し、自ら学ぼうとする意欲の向上や学習内容の定着につなげていきたい。

今回の調査結果を教育活動の改善に活かすため、全国平均と大きく差があった項目や、課題が見られた内容を中心に御紹介しました。調査によると、児童の一人一人の活躍を認めることで自己肯定感を高めることや生活習慣を見直すことで学習に集中できる環境を整えることの重要性が明らかになりました。意欲を高める声かけや「早寝早起き朝ごはん」の習慣により、子どもたちがいつでも生き生きと活動できるよう、御協力をお願いいたします。



※さっぽろっ子「学び」のススメ リーフレット裏面 より

また、スマートフォンやタブレット端末などで長時間にわたり SNS や動画視聴をしている児童が増え、生活習慣や学習活動への支障も考えられることから、今後はますます、家庭での適切なルール作り見守り、NET モラル教育が重要になっていくことも分かりました。学級懇談でも話題にさせていただきましたが、お子様の発達段階に応じたスマートフォンやSNS、生成AIなどの取り扱いについて御確認の上、安心して使用できるよう御協力をお願いいたします。

子どもたちのよりよい成長を目指すためには、学校と家庭が連携し、子どもたちの頑張りを支えていくことが大切です。今後も、清田小学校の教育活動への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。